

# 江戸時代の武家住宅が完全な形で 今に残る貴重な文化遺産。

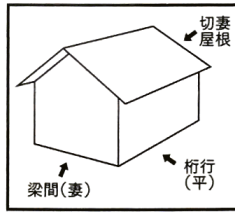
今日、残っている江戸時代の武家住宅の多くは、幕末、明治期に建て替えられていたり、その後の改築が激しかったり、附属建物が失われていたりする例が多く、旧黒澤家住宅のように完全な形で江戸時代の形を伝える武家住宅は全国的にも類例がありません。具体的には次のような特色があります。

## 構造及び形式

- **主屋**  
（書院）  
桁行 一〇・三 m 梁間 一・四 m  
（小座）  
桁行 三・六 m 梁間 七・二 m  
（台所）  
桁行 九・五 m 梁間 五・五 m  
平面積 二一七・〇九 m<sup>2</sup>（六五・七八坪）
- **表門**  
長屋門形式 石置板葺 切妻造  
桁行 一四・一 m 梁間 三・七 m  
平面積 五二・六六 m<sup>2</sup>（一五・六五坪）
- **土蔵**  
石置杉皮葺 切妻造  
桁行 三・九 m 梁間 三・〇 m  
平面積 一八・四四 m<sup>2</sup>（五・七一坪）
- **米蔵**  
桁行 四・五 m 梁間 三・六 m  
平面積 一六・四一 m<sup>2</sup>（五・五八坪）  
こけら葺 切妻造
- **木小屋**  
桁行 五・五 m 梁間 三・六 m  
平面積 一九・五〇 m<sup>2</sup>（五・九二坪）  
こけら葺 切妻造
- **氏神堂**  
桁行 二・一 m 梁間 一・七 m  
平面積 三・四七 m<sup>2</sup>（一・〇五坪）  
切妻造

## 用語の解説

● **桁行と梁間**  
（けたゆきとほりま）  
こけら葺とは木材を薄くはいだ板（こけら）で屋根をふいたもの。杉皮葺は杉の皮を細かくさいたものを用いる。石置とは、屋根の上に石を置いたもの。



### ① 表門

十八世紀前半に建築された屋根に石を置いた、長屋門形式の表門です。江戸時代においては、門によって武家住宅の格が決められており、長屋門形式の表門は上級武士にのみ許されていました。



### ② 主屋

十八世紀前半に建てられた。書院造りの座敷棟と台所棟からなります。

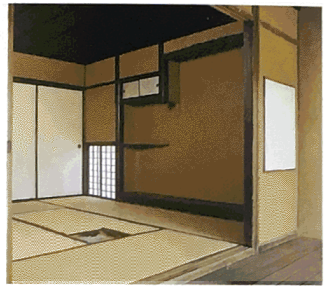


### ③ 玄関

三畳の座敷が付けられた上級武家住宅らしい立派な玄関です。

### ④ 便所

脱衣所付きの広い造りで、砂を敷いた引出し式の便所です。建物の内と外から見てもみましょう。



### ⑤ 小座

一九世紀の中頃に増築されたと考えられます。通称、「おごさ」と呼ばれていましたが、「奥座敷」の略称と考えられます。



### ⑥ 座敷棟

十八世紀前半に建てられた書院造りの広い座敷です。飾りがなく地味ながら細目の柱を用いて上品にまとめられております。



### ⑦ 台所棟

十八世紀前半に建てられました。便所、浴室、流しなどからなりませんが、現在の構造との違いから当時の生活習慣を想像してみましよう。



### ⑧ 土蔵

嘉永四年（一八五二）に移築されました。主屋と直接連結しているのが特色です。



### ⑨ 米蔵

天保元年（一八三〇）に建てられた高床式の米蔵です。

### ⑩ 木小屋

万延元年（一八六〇）に建てられた、物置と作業小屋を兼ねたものです。

### ⑪ 氏神堂

文政十一年（一八二八）に黒澤家の旧屋敷で建築され、黒澤家の移転に伴って移築されました。

### ⑫ 茶畑

庭を茶畑に利用しており、お茶の木が今も植栽されております。

